

ほっかいどうの社会保障

2011年6月14日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648

FAX:758-4666

「社会保障」拡充めざす国民的大運動を！

—北海道社保協

第18回定期総会開く—



6月11日に第18回定期総会を札幌エルプラザで開催し、道内各地の地域社保協や加盟団体から65人が参加しました。

総会当日は東日本大震災から3カ月目でもあり、犠牲者への黙祷をささげ開会しました。黒川一郎会長が、「東日本大震災後大きな変化が起きた。原発神話が崩れ、改めてどういう国づくりをしなければならないか問われて

いる。世論を広げ、政治を良くし本当の新しい社会にしていく必要がある」と挨拶し、吉岡事務局長から議案の提案が行われました。

運動方針では、東日本大震災、原発事故が示した国のあり方、社会保障抑制と消費税増税を突き進む民主党政権とその内容、深刻さを増す道民の暮らしなどについて情勢報告し、「社会保障国会」をはじめ社会保障の改善を求めるたたかい、大震災への支援・救援活動、北海道社保協の活動と組織強化の取り組みなど2010年度の活動に触れて、2011年度の運動方針について提案しました（重点課題は下記の通り）。

①「税と社会保障の一体改革」とのたたかいをすすめる／②国保、介護などの改善を全道ですすめる／③福祉優先のまちづくり、安全・安心のまちづくりをすすめる／④反貧困のとりくみをすすめる／⑤北海道社保協の役割を強め、共同のとりくみをすすめる

* 今年の北海道社保学校は、2011年9月11日（日）札幌市で行います（講演は二宮厚美教授）。

福祉優先のまちづくり、エネルギー政策の転換を

各地から活発な発言！

討論では、地域社保協・加盟団体から9の方が発言しました。「介護保険改悪に反対する署名を市内の介護事業所に申し入れ、3週間で2400筆を集めた」（オホーツク勤医協）「“被災地でも都市部でも過疎地でもどの子にもゆき届いた保育を”を合言葉に、保育の市場化をすすめる『子ども子育て新システム』反対の署名を全道で20万筆集めた」（道保育団体連絡会）、「SOSネットの活動から、自立をめざす青年が変化してきている」（北区生活と健康を守る会）、「税の一体改革の前に、民主団体を攻撃する国税通則法の改悪がすすんでいる」（北商連）、「防災と福祉についてのわが街ウォッチング、子宮けいがんワクチン、介護などの話し合いを重視して取り組んでいる」（新婦人）、「継続的な路上生活者の調査と相談活動している」（函館社保協）、「国保証の発行留め置き（1カ月の資格証明書）を撤回させた取り組み」（根室社保協）、「障害者行政をめぐる情勢とたたかいの報告。権利として障害者福祉が大切」（障道協）、「大震災の中短時間で決められようとしている介護保険改悪の内容とたたかい」（福祉保育労）などの発言がありました。

総会方針案、決算、予算案が全会一致で採択され、黒川一郎会長以下、副会長、事務局長、事務局次長（下記の通り敬称略）、運営委員、会計監査などの新役員が選出しました。

記念講演は、「買い物に窮する人たち」

総会に先立つ記念講演では、杉田聡教授（帯広畜産大学）が「『買い物難民』問題の現状と課題」と題して講演しました。

高齢者から相談事例を紹介し、商店街の衰退などで高齢者の買い物難民が出現したこと、高齢者の特性と困難の実態、健康を奪われる事態を告発し、将来自分にも関わる問題ととらえて地域づくりにとりくむことが必要と強調しました。



副会長 猪狩康代、大橋晃、甲斐基男、片岡克己、中井秀紀、名知隆之、三浦誠一（現）、吉岡恒雄（新）
事務局長 沢野天（新） 事務局次長 斉藤浩司、細川久美子、湯本要、渡部務（現）、坂本諭、橘晃弘（新）